

会議録

会議名	令和5年度 第3回 目黒区廃棄物減量等推進審議会
日時	令和5年11月13日(月) 午前10時00分～午前11時30分
会場	目黒区総合庁舎1階E会議室
出席委員 (敬称略)	平尾、高橋、岸、坂元、佐藤、斉藤(優子)、原、森銅、小林、関戸、坂本、木崎、大沼、小野、吉田(計15名)
区側職員	堀内環境清掃部長、和光清掃リサイクル課長、松下環境保全課長、細野清掃事務所長
傍聴者	なし
配付資料	資料1 目黒区一般廃棄物処理基本計画改定素案について 別紙1 目黒区一般廃棄物処理基本計画素案(概要版) 別紙2 目黒区一般廃棄物処理基本計画素案
会議次第	<p>1 開 会 20名中、出席者は15名であり、半数以上の出席があるため定足数を満たしており、会は成立する。</p> <p>2 議 事 &lt;報告事項&gt; (1) 目黒区一般廃棄物処理基本計画改定素案について</p> <p>○区 (資料および別紙により説明) 本日13日から計画改定素案のパブリックコメントを実施する。 また、審議会とオピニオンペーパーでのご意見をまとめて審議会からの意見とする。</p> <p>○委員 計画の2R推進とリサイクルについて、ごみを減らしていくリユース・リデュースは非常に大切であるが、経済成長も重要だと思う。ごみの減量と経済成長の両立について、どのようなことを検討しているか知りたい。</p> <p>○区 サーキュラエコノミーの考え方になるかと思う。リデュース・リユース・リサイクルを、どのようにビジネスにつなげていくかが課題となると思う。近年では、地域SNSや洋服の量販店などがリユースをもとにした事業で活性化している。3Rを行うことで、新たな産業が発展し、経済が成長していくことが重要と考える。 区として行っている取組としては、買い物ルールの普及啓発の過程で、エコな取組をしている事業者を利用するよう区民に推奨している。ごみの減量と事業者の活性化を両立させることについて、難しい課題ではあるが、引き続き検討していきたい。</p> <p>○委員 審議会では、ごみ減量を中心に議論を進めていくことになるのか。</p> <p>○区 ごみの問題について、大量生産・大量消費型の社会では、環境への負荷が大きく、循環型の社会に移行してきた経過がある。世界的にみても、大量生産・大量消費から脱却した新しいビジネスモデルの構築を進めている流れがある。その流れは非常に重要であり、経済成長とごみ減量を完全に切り離すのではなく、それらを両立させていく必要がある。</p> <p>○委員 P27の家庭ごみ有料化について、不法投棄の問題についてどのくらいの発</p>

	<p>生割合を予測しているのか。また、有料化を実施しなければならないラインはあるか。</p>
○区	<p>家庭ごみ有料化に伴う不法投棄の増加割合の予測は難しく、予測はできない。一般論で言えば、有料の区があれば、無料の区に捨ててしまおうと考える人が出てくる可能性は否定できない。</p> <p>有料化の検討についてだが、中間処理を23区共同で行っているなかで、区単独で実施を踏み切る明確なラインについては設定が難しい。23区で情報共有を行いながら、一体的に進める必要があると考えている。</p>
○委員	<p>新たな資源回収について、販売する立場の意見であるが、アルミを使用しているものが多く出回っているように思う。例えば飲料・薬の包装などは燃やしているのか、リサイクルしているのか。</p>
○副会長	<p>アルミのリサイクルは比較的簡易であり、コストも低い。分別は、電磁石で可能であるが、小さいものは機械分別が難しい。区民一人ひとりで分けていただくのが有効である。かつて工場の分別作業でアルミホイルから火災が起きたことがある。その点からもアルミホイルは家庭で分別していただくのが良い。</p>
○会長	<p>薬の包装はプラスチックと貼り合わされているものもあるので難しい。</p>
○委員	<p>アルミホイルはどのように捨てればよいか、きちんとリサイクルされるのか教えてほしい。</p>
○区	<p>アルミホイルは不燃ごみで出していただくよう案内している。不燃ごみ中の鉄やアルミについては、清掃一組管理の不燃ごみ処理センターで回収され、再資源化されている。</p>
○委員	<p>牛乳パックにプラスチックの注ぎ口が付いているものの分別も難しい。</p>
○委員	<p>以前の審議会で戸別収集の費用について質問したところ、新たな費用はかからないと回答があったが、実際のところどうなのか。家庭ごみの有料化は区が率先して実施するべきと考えるが、時代の流れの中で実施できるようになるのか。区単独では実施が難しいと言われていたレジ袋の有料化も時代の流れで実施された。</p>
○区	<p>目黒区の集積所は2万数千か所程度である。戸別収集では、作業員の数や収集車の台数が増えるため、費用が増加すると考えられる。</p>
○会長	<p>ごみ出しが困難な高齢者のごみを戸別に収集するだけなら、費用はあまり変わらないというのが以前の審議会での話であり、全ての世帯の戸別収集とは趣旨が異なる。</p>
○区	<p>レジ袋の有料化は国の主導で行われた。家庭ごみ有料化は区に決定権があるものの、中間処理を共同で行っていることなどから、区単独で有料化を行うには課題が大きい。23区全体で連携し、進めていく必要がある。</p>
○委員	<p>23区の協調が欠かせないのは当然である。有料化するにあたって、何が問題になっているのか。</p>
○区	<p>各区の有料化の検討は足並みが揃っていない。23区全体で取り組んでいく必要があるという認識を多くの区が持っていると考えられるが、2</p>

	<p>3区の部長会や課長会では議論が進んでいないのが現状である。</p> <p>○委員 レジ袋が有料化になった時、大騒ぎにはならなかった。家庭ごみについても、無料のままではいけないことをはっきり伝えて、目黒区でしっかり進めていただきたい。</p> <p>○区 かつては東京都が一体的に23区の清掃事業を進めてきたが、都区制度改革を契機に清掃事業の権限を各区に移譲することとした。当初は一区一清掃工場とする計画でスタートしたが、工場の建設を進めていく過程で23区全てのごみを処理する能力が整った。国の補助金が不交付となる関係もあり、一区一清掃工場計画から、それまでに整備した清掃工場を23区で共同運営し、処理していく計画に変更した。この計画変更により、収集運搬は各区で行い、中間処理は清掃一組で共同処理する現在の役割分担になった。また、ごみの最終処分は東京都が行っており、埋立処分費用は清掃一組を介して各区が負担している。このように、23区の廃棄物処理は、区、清掃一組、都の3層構造となっており、目黒区だけが有料化を実施した場合、区民の納得をいただくことは難しいと考える。まずは、ごみの減量を進めると同時に、分別する資源を統一するなど、各区で足並みをそろえていく必要がある。</p> <p>なお、清掃一組については中間処理を行うことに特化した自治体組織であり、23区の分別を統一するような権限は持っていない。</p> <p>○委員 是非スピード感をもって検討を進めてほしい。</p> <p>○会長 歴史的な経緯と横割り組織の弊害があるが、引き続き有料化に向けた検討を進めていただきたい。</p> <p>○委員 23区で回収ルールを統一基準にし、そこから有料化を進めるべきではないか。目黒区の回収方法は費用がかかっている。費用のかからない方法を採用し、23区で回収ルールを一本化できないか。</p> <p>○区 各区で区民の入れ替わりがあるなかで、統一ルールは分かりやすいという利点がある。一方、区ごとのルールについては、住宅街や、農地が多いなど、区の特徴を考慮して、各区が最適な分別ルールを選択している。なお、プラスチックのリサイクルについては、国等からの働きかけもあり、今後統一されていくと考える。</p> <p>○委員 目黒区は住宅地なので、分別の条件が厳しい。他の区も厳しい基準に合わせやるべきではないか。目黒区から発信できないか。</p> <p>○区 収集運搬が各区事項であることから、リサイクル品目も各区の判断に任されている。リサイクル品目を増やすと費用負担が高額になるため、実施判断は各区の考え方に左右される。目黒区としてはリサイクル品目の共通化に向けて部長会などで都度申し入れをしているが、最終的に経費をかけてリサイクルをするのかを判断するのは各区である。オフィス街や繁華街、住宅街など、区によってごみの組成や予算配分の考え方が異なるため、23区で統一が難しい。ただし、レジ袋有料化で見られたように、法制度などを根拠とした費用負担がかかってくると成果が得やすい傾</p>
--	---

	<p>向はある。</p> <p>○委員 スケジュールについて、11月13日から12月15日までパブリックコメントを実施し、11月27日から29日までオープンハウス説明会とのことだが、どのような形で広報しているのか。説明会の期間はもう少し長くとれないか。</p> <p>○区 改定素案は都市環境委員会にて報告済みであり、このあとパブリックコメントで区民の意見を募る。今後のスケジュールとしては、審議会の意見をまとめ、パブリックコメントと併せて素案の修正を検討し、改定案を作成する。</p> <p>広報については、11月15日号の区報で改定素案をウェブサイト等で閲覧できること、説明会を実施することをアナウンスしている。原則ウェブサイトで素案の閲覧をお願いしており、さらに疑問があれば、説明会に参加をお勧めしている。</p> <p>今年度の審議会は今回が最後であり、次年度の審議会で完成した計画についてご報告する。</p> <p>○委員 所属団体へ情報共有するので、印刷したものがほしい。</p> <p>○区 事務局で用意するので、審議会終了後に何部必要か知らせてほしい。</p> <p>○委員 新しいことをするには経費がネックになる。現在の清掃リサイクル事業は税金・国からの補助が中心であるが、新たに資金を作る計画はあるか。</p> <p>○区 国・都から補助金が出る。区単独の基金はなく、補助金を活用しながら事業を進めている。</p> <p>○委員 ごみは資源であり、資源を分別すれば売れる。世田谷区は地域 SNS 事業者と連携してリユースを進めている。</p> <p>○区 目黒区でも地域 SNS 事業者であるピアッツァと連携協定を結んでおり、ウェブサイト等で利用者同士での不用品の譲り合いを広報している。地域 SNS では、ユーザーがホームエリアを登録することができ、目黒区エリアは多くの区民が利用している。今後、リユースについての更なる連携強化を考えていく。集めたものを売って資金とすることについては、スペース確保の問題、法的な整理などが検討課題になろうかと思う。</p> <p>○区 リサイクルには費用がかかる。区としては拡大生産者責任、すなわちモノを作った人が処理責任まで持つことを原則と考えているが、経済的にマイナスとなる側面もあるため、なかなか進まない。容器包装プラスチックについては、容器包装リサイクル法が施行され、製造者・販売者からリサイクル費用が拠出される仕組みができたが、リサイクルしようとする素材の流通量が少ないと、同じような仕組みを作るのが難しい。さらに単一素材の製品が減っており、リサイクルするための分別に多くの手間がかかるようになってきている。7月から開始した製品プラスチックのリサイクルについては、現状では区がリサイクルに関する費用を負担している。</p> <p>今後の主な課題として、リサイクルに要する費用を製造者や販売者がど</p>
--	--

	<p>のような形で負担していくかという点と、区民が分別したものを再資源化するリサイクラーを確実に確保していく点がある。例えば、区が今後開始予定の古布のリサイクルは、回収してリサイクルまで請け負ってくれる企業を探すのに非常に苦労した。</p> <p>○会長 いずれにせよ、リサイクルには技術面や費用面の課題があるので、個人個人が処理して、区の収集に出さないのが望ましい。</p> <p>○委員 イベントでごみ問題のブースを出し、区民に難しさをアピールしてはどうか。</p> <p>○会長 面白いと思うので検討してみてもいいか。</p> <p>○委員 衣類を引き取ってくれる場所がないという意見がある。ネットで売るのが難しい人もいる。使えるものを捨てるのは忍びない。</p> <p>○委員 個人的にはエコリングを利用している。金額は低い確実に引き取ってくれる。目黒区ウェブサイトにはブックオフが紹介されているが、エコリングはなかった。</p> <p>○区 区内の古着販売業者にヒアリングしたところ、利用者が持ち込んだ衣類は、値段が付かないようなものも含めてほとんど全部買取をしていると聞いた。紳士服専門店なども衣類回収リサイクルを最近始めたと広報しており、自社ブランドでなくても回収しているようだ。民間に参加していただくのが経済的にも一番良い。古着に関しては、エコプラザで回収しているものの、近所に持って行く所がない区民もいるため、区として資源回収の強化を検討している。また、先ほど紹介したピアZZを利用するの不用品全般の譲り合いも積極的に推奨していきたい。</p> <p>○会長 衣類の引き取りをする場合には、廃棄物処理法や古物営業法に抵触する可能性があるため注意が必要。</p> <p>○区 古布・古着は区で拠点回収すると、まとまった量が集まるため、安定した処理ができるリサイクラーが必要である。現在、リサイクラーを確保できる道筋が見えてきており、拠点回収の開始時期も含めて検討中である。</p> <p>○委員 綿100%はウエスになるのではないか。</p> <p>○会長 ウエスは需要に対して供給過多な状況である。綿は生産時の水の消費量が多く、綿の衣類は環境負荷が高い実態がある。</p> <p>●連絡事項</p> <p>①オピニオンペーパーは11月22日までに提出</p> <p>②3月5日プラスチック資源リサイクル中間施設見学実施</p> <p>③今年度の審議会は終了 来年度の開催日程については3月から4月に通知予定</p> <p>3 閉 会</p> <p style="text-align: center;">以 上</p>
--	--